

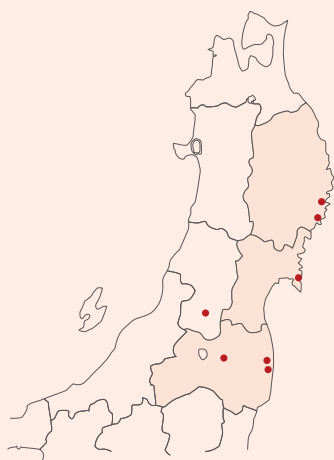


みんなで
がんばろう
日本●

2011年度 年次報告書
[2011年6月～2012年5月]

被災地は いま——。

東日本大震災から1年。
失ってしまったもの、変わってしまったもの、
変わらないもの、前に進んだもの。
「被災地」の今。



戻ることのできない故郷 —— 福島県浪江町



宿題ができる場所 —— 宮城県女川町・岩手県



支えあう生活 —— 山形県米沢市



遊び場を求めて — 岩手県大船渡市



思い切り運動ができた校庭には仮設住宅が。
大船渡市では6割の小中学校で十分な運動スペースが確保できていません。

撮影：2012年6月

あの日から時間が止まってしまったかのような故郷。
浪江町の人々は、故郷へ想いを馳せながら、それぞれの場所で、目の前の生活と向き合っています。

撮影：2012年3月・5月

向き合って暮らす — 福島県郡山市



除染された公園で元気に遊ぶ郡山の子どもたち。
公園には除染前後の放射線量が掲示された看板が設置されています。

撮影：2012年6月

大槌町

仮設住宅では、落ち着いて勉強する十分なスペースがありません。
様々な支援団体が子どもたちが集中して勉強できる場を創り出しています。

撮影：2012年7月

処理できないガレキ — 福島県南相馬市



処理することができず、いまだ、この場所に積み上げられたままのガレキ。2012年5月時点で1.1%しか処理できていません。*

撮影：2012年2月

※環境省 2012年5月7日発表 「沿岸市町村の災害廃棄物処理の進捗状況」より <http://www.env.go.jp/jishin/shori120507.pdf>

避難先での生活が、せめて心が落ち着くものであるように。
故郷福島を離れて暮らす人同士が交流できる場を、お母さんたち自身で作っています。

撮影：2012年6月

活動理念

復興支援を通じて、
次の世代が幸せに暮らす社会の創生に貢献する。

ビジョン

子どもたちが夢と希望を育む環境を実現する。

ごあいさつ



一年間の活動を通じ、実感したこと

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
代表理事

立石 勝義

東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

当財団は、多くの被災者のうち、支援の輪が特に届きにくいと思われる子どもへの支援活動を中心に行うため、ソフトバンクグループの孫 正義 代表による寄附で設立されました。

これまでの1年間、様々な活動を行ってまいりましたが、その中で、次の3点を特に強く実感いたしました。

まず、多岐にわたる課題のため、復興や防災計画が、ほんの一部地域でしか実行に移されていない状況です。

さらには、原発事故地域の皆さんの苦悩です。放射線数値に対する住民それぞれの捉え方が異なり、自身ではどうすることもできないことへの焦燥感を強く感じました。

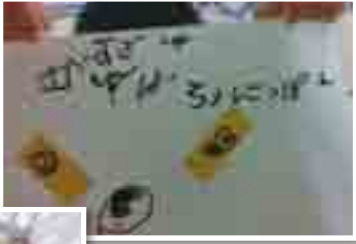
一方、一般には目立たないながらも、公的機関の目や手が届きにくい所で、被災者の方々に寄り添って地道な活動を続けている個人・支援団体の方が多くおり、その存在に希望を感じました。

まだまだ多くの時間が必要と思われますが、復興に向けて頑張る皆さまと、復興を祈る皆さまのお気持ちを一つ一つを紡ぎ、職員一同が、しっかりと活動を継続することで、一日も早い復興に貢献できるよう、頑張ってまいりたいと思います。

末尾ながら、いつも私共の活動を力強く応援していただいている皆さまに深く感謝するとともに、心より御礼申し上げます。

これからも引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011年度活動概要

2011年 3月	●東日本大震災発生	
4月		
5月		
6月	●一般財団法人東日本大震災復興支援財団設立	
7月	●公益財団法人認定 ●設立記者会見	
8月	●一時転居支援第1期公募開始 ●子どもサポート基金第1期公募開始 ●18歳まで携帯料金サポート公募開始	
9月		
10月	●子どもサポート基金第1期助成先決定	
11月	●まなべる基金第1期公募開始	
12月	●「ふみだすふくしま」プロジェクト開始 ●一時転居支援第2期 ●ふみだす探検隊(冬) ●ふみだす生活サポートセンター ●ふみだす集中ゼミ in 会津若松 ●ふみだす未来の教室 in 南相馬	 
2012年 1月		
2月	●まなべる基金第1期奨学生決定 ●子どもサポート基金第2期公募開始	
3月	●活動報告会開催 ●ふみだす探検隊(春)募集開始	
4月	●ふみだす未来の教室 in 南相馬 本オープン ●子どもサポート基金第2期助成先決定	
5月	●芋煮会ワークショップ開催	



学べるしあわせをみんなに。

高校生対象給付型奨学金

「まなべる基金」

支援総額

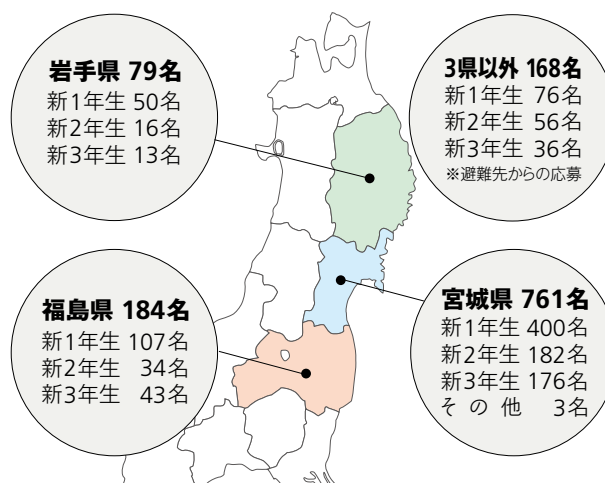
6.7億円 ※支援総額は、今後の支給予定分も含みます。

支援者数

1,192名

協力団体

NPO法人新現役ネット



活動の背景と概要

震災後、被災した学生向けにたくさんの奨学金制度が立ち上がりましたが、その多くは遺児・孤児が対象でした。保護者が健在であっても、被災や失業による経済的な理由で進級・進学が危ぶまれる生徒がたくさんいます。「まなべる基金」は、こうした高校生を対象に、毎月2万円を最大3年間支援する、給付型奨学金です。

今後の予定

被災各県市町村の教育委員会関係者、及び教員の方々などにお話を伺いながら、次期の実施を検討してまいります。

感謝の連鎖を生む奨学金

今回の震災で、被災地の中高生たちは、自分の未来に対して、通常想像し得ない絶望感や喪失感を覚えたと思います。そんな中、「頑張れよ」と彼らの背中を押してくれたのが、「まなべる基金」だったのではないかと感じます。

「まなべる基金」を評価できるのは、給付型である点です。貸与型は、生徒たちにどうしても“返済”という精神的な負担を強いてしまいます。郡山市でも、震災前から高校生向け給付型奨学金を実施していますが、生徒の中には、毎月給付を受けることで、日々誰かに支えられている喜びを実感し、「誰かのために役に立ちたい」と目標を持つ子が多く、その成長ぶりに毎年驚かされています。「まなべる基金」の奨学生の間にも、感謝の連鎖が起こるのではないのでしょうか。財団には、今後もこうした奨学金の継続や拡大を期待するとともに、故郷の未来を担う高校生たちが、自らの夢を具体的に抱いた際、それを支援する仕組みを作っていただきたいと思います。



郡山市教育委員会
学校教育部 部長
齋藤 義益さま

まなべる基金奨学生インタビュー

第1期の奨学生1,192名を代表して、各県の高校生3名にインタビューをしました。
未来に向かって歩き出した彼らの声を聞いてください。

みんなの支えになる | 岩手県釜石市 高校1年生 鈴木 禅さん

現在、母、祖母、姉の4人で暮らしています。震災後、家は無事だったのですが、姉の大学進学でお金がかかったり、親の給料が下がったことを聞き、少しでも負担が減るように奨学金を申し込もうと思いました。高校入学後、ラグビー部に入部して高総体に出場しました。ラグビーには、以前やっていた野球とは違った激しさと格好良さがあるし、将来の夢である自衛隊に入る時にも役に立つと思っています。釜石商工高校で、学力や人間性を身につけ、中学1年の頃から憧れている自衛隊に入れるよう努力したいです。

震災後は、とにかく頑張らなきゃなと感じました。高校は、とにかくきちんと卒業できるように頑張りたいと思っています。学校の先生たちも大変だし、自宅がなくなって大変な人もいし、みんなの支えになれたらと思っています。震災があつてから、大変な時もありましたが、みんな頑張っています。寄附をしていただいたことに感謝していますし、僕たちも釜石商工高校で頑張っていることを伝えたいです。



つながりの大切さ | 宮城県気仙沼市 高校3年生 熊谷 玲美さん

母は自営業で美容師をしていたのですが、震災後、水が復旧せず、なかなか再開できませんでした。また、父は南三陸町に勤めていたので、車や職場が流されたりして、どうしても震災後に負担しなければならないお金が増えました。私は専門学校への進学を考えており、できるだけ自分でなんとかしたいと思っていたのですが、やはり進学にはお金がかかってしまうので、両親と話し合い、奨学金を申し込みました。将来は、私も美容師になって、母の仕事を手伝いたいと思っています。震災後、ニュースで理容師や美容師の方が避難所などで支援をされているのを見て、人とコミュニケーションを取りながら身なりを整えていくと、気分も変わるのだなと実感し、改めて良い仕事だと思いました。部活動の創作ダンスでは、全国大会への参加が決まっています。私たちにしか伝えられないことを伝えようと、震災をテーマに演目を作りました。ダンスや震災を通じ、人と人が繋がるということの大事さを改めて感じます。奨学金を通じて支援して下さる方々とも、こうして繋がることができていると思うので、本当にありがたいと思っています。



感謝をしながら | 福島県郡山市 高校1年生 熊倉 奏恵さん

私は4人兄弟なのですが、1番上の兄は東京の大学に通っていて、2番目の兄は高校生、妹はまだ小学生です。以前から、4人兄弟を1人で育てる母の大変さを感じていたのですが、震災後の大変な状況の中で、私が奨学金をもらうことで、少しでも負担が楽になるのではないかと思います、応募しました。震災が起こってから、仲の良かった友達が転校してしまい、寂しい思いもしましたが、私自身は県内で頑張ろうと考えています。また、今回の震災で、ボランティアなど、全国からたくさんの支援がありました。もし今後他の地域で同じようなことがあったら、私も参加したいと思っています。中学生の時は合唱部に入っていたのですが、今の高校は合唱部がありません。ただ、歌うことが好きなので市の合唱団などに入ろうかなと考えています。高校生活は、奨学金を通じて支援してくださった方々に感謝して、勉強と保育士になる目標に向かって、一生懸命頑張っていきたいと思っています。明るく、周囲のいろいろな人と交流が持てるような大人になりたいです。





ふくしまの親子が明日へ向かって踏み出す一歩を応援します。

「ふみだすふくしま」プロジェクト

ふくしまで歩いてゆこうと決めた人

ほかの土地でふくしまを見守ろうと決めた人

それぞれの心にある、ふくしまへの想い。子どもたちへの想い。不安と希望。

降りかかる大きな困難にもめげず、顔を上げて未来へと一歩ふみだす皆さんの
勇気を応援する「ふみだすふくしま」プロジェクト。



一時転居支援

	第1期	第2期
支援総額	3億2,825万円	1億2,960万円※
支援者数	1,514世帯	819世帯
最大助成金額	30万円	20万円

※支援総額は、今後の支給予定分も含みます。

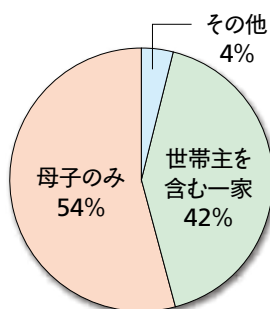
活動の背景と概要

震災直後から福島在住のお母さんたちの「子どもへの影響が心配で、一時的に避難・転居したくても、経済的にできない」という声をたくさんいただきました。「一時転居支援」は、そのような方々が慣れ親しんだ場所を離れても安心して落ち着いた生活ができるよう、転居等にかかる費用を助成する制度です。

今後の予定

福島県内でのご要望や状況の変化に応じ、継続実施について検討してまいります。

●母子避難が6割



一時転居支援を受けた世帯では、約6割が母子のみの避難です。避難先への支援も必要とされています。

大事な一歩を支えてくれる存在



福島大学 准教授
丹波 史紀さま

東日本大震災と福島原発事故は、豊かな自然やおいしい食物、安心して子どもを育てられる環境など、多くのものをふくしまから奪っていきました。そして様々な決断をそれぞれの個人や家族に投げかけました。誰もが皆、悩みながら苦悩しながら前をどう向いていいか考えながら生きています。誰もが安心して自分らしく生きたい、そんな思いを後押ししてくれる存在が「ふみだすふくしま」なのだと思います。多くの人の大事な一歩をこれからも支えてくれる存在であることを期待しています。



ふみだす生活サポートセンター

支援総額

664万円 ※支援総額は、今後の支給予定分も含みます。

支援者数

181名(2012年5月31日時点)

協力団体

運営：一般社団法人 ふくしま連携復興センター

活動の背景と概要

「福島や避難先で暮らす中で、不安や悩みはあるけど誰に相談したらよいかわからない」
そんな被災者の皆さんの声にお応えし、困りごとや悩みごとを相談できる場として設置されているものです。

今後の予定

福島県内外のご要望や状況の変化に応じ、サポート内容も含め検討してまいります。



ふみだす探検隊(冬プログラム・春プログラム)

	冬プログラム	春プログラム
支援総額	484万円	349万円
支援者数	408名(のべ参加人数)	204名(のべ参加人数)
場所	岩手県遠野市、福島県会津若松市	新潟県加茂市、福島県石川郡古殿町、 宮城県柴田郡川崎町

協力団体

主催：一般社団法人 ふくしま連携復興センター
運営(冬)：特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク、芦ノ牧ホテル
運営(春)：特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト、
特定非営利活動法人 あるきんぐクラブ・ネイチャーセンター

活動の背景と概要

福島では、外で自由に遊ぶことができない環境に置かれている子どもたちが少なくありません。「ふみだす探検隊」はそのような子どもたちの心身の健やかな成長をお手伝いするため定期的に実施する体験学習プログラムです。

今後の予定

福島県内外でのご要望が多いことから、夏以降も実施してまいります。



ふみだす集中ゼミ in 会津若松

支援総額

239万円

支援者数

193名(のべ人数)

協力団体

運営：特定非営利活動法人 キッズドア 共催：特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎
後援：大熊町教育委員会

活動の背景と概要

避難所や避難先への転居により、学ぶ場や学習機会が十分に確保されず、学習の遅れが懸念されています。「ふみだす集中ゼミ」はそのような子どもたちの進学を支援するための無料学習サポートです。

今後の予定

他の避難先における実施について検討してまいります。



ふみだす未来の教室 in 南相馬

支援総額

300万円 ※支援総額は、今後の支給予定分も含みます。

支援者数

1,226名(2012年5月31日時点)

協力団体

運営：特定非営利活動法人 トイボックス 後援：南相馬市教育委員会

活動の背景と概要

被災地では、発達障がいを持つ子どもたちを受け入れる環境が十分に整っておらず、生活環境全体の改善が求められています。「ふみだす未来の教室」は、発達障がいを持つ子どもたちの、被災地における十分な教育機会の確保のための電子教材を使った教育支援です。

今後の予定

今後も南相馬市において継続実施してまいります。



被災した子どもたちを支える皆さんの活動を応援

支援活動団体向け助成

「子どもサポート基金」

支援総額

第1期 9,494万円

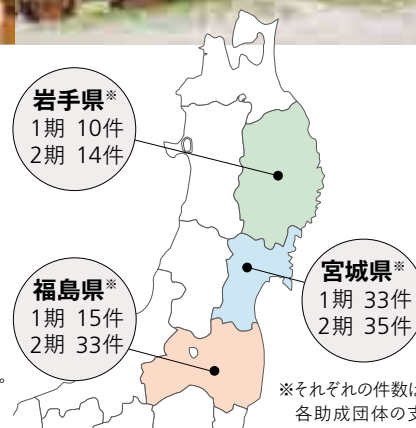
第2期 9,674万円

※支援総額は、今後の支給予定分も含みます。

支援件数

第1期 51件

第2期 72件



※それぞれの件数は、各助成団体の支援活動地域のべ数です。

活動の背景と概要

被災地では、政府や行政の手が届きにくい、現地のさまざまなニーズに対応した支援を行う存在として、NPOやボランティア団体が大きな役割を果たしています。しかし、こうした団体の多くは、安定した資金基盤がないため、継続的な活動が困難な状況にあります。「子どもサポート基金」は、このような状況を少しでも解消できるよう、子どもへの支援を行っている団体への助成を行うため創設されました。

今後の予定

2012年度中に、第3期実施を検討しております。

現地目線の事業評価を

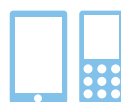
東日本大震災の被災地域は広範囲であり、子ども関連のNPOも限られていたり偏っている特徴がありました。その中では、支援が行き届かない地域やテーマを発掘し、時に支援先を指導する役割が求められます。子どもサポート基金はそうした役割を果たせたと考えます。申請を待たずに被災者ニーズを発掘し、支援団体と共にプログラム開発も展開できていました。今後の期待は事業評価です。現地目線でみて各事業が成果を出しているか。いかなる改善が必要かを、評価を通じ明らかにして頂きたいと期待しております。



一般社団法人
RCF 復興支援チーム
代表理事

復興庁 政策調査官
藤沢 烈さま

子どもたちの“話す”“つながる”をサポート 18歳まで携帯料金サポート



震災でご両親や保護者をなくされた18歳未満の子どもたちは、240人を超えます。* 当財団では、こうした子どもたちを含むご家族の経済的負担を軽減するため、携帯電話やPHSの料金を月1万円までサポートしています。本制度のお申込は、2012年5月31日時点で、34名です。

※厚生労働省調べ（2012年3月28日時点）



支援を受けられているお子さんからのお手紙

子どもサポート基金助成団体

当基金の助成先の中から、「一時保育施設さくらんぼ」と、「NPO法人うれし野こども図書室」とさまよりコメントを寄せていただきました。

助かっています | 一時保育施設「さくらんぼ」 宍戸 隆子さま

一時保育施設「さくらんぼ」は、福島県を中心とした自主避難者自らが、北海道札幌市で運営する避難者のための託児施設です。

就職活動をしたいけど、子どもを預かってくれる場所がない。病院に行きたいけど小さな子を連れて行くのは大変…。「さくらんぼ」は、そんなお母さんたちのために自由な時間を作る場所であり、また彼女たちのワークシェアリングの場所でもあります。少しでもお母さんたちの家計の負担を減らしたいとの思いから、子どもサポート基金の助成金は「さくらんぼ」を運営するための費用として活用させていただいています。

長期化する避難生活は避難者の孤立化をどうしても招いてしまいがちです。母子での避難はなおさらです。

託児を通して、子ども同士だけでなく親御さん同士もつなぐコミュニケーションの場所として、活用していけたらと考えています。



活動続ける私たちの大きな心の支え | NPO法人うれし野こども図書室 理事長 高橋 美知子さま

うれし野こども図書室は、岩手県盛岡市で35年間活動している団体です。図書室での本の貸し出し、小学校での昔話や創作のストーリーテリング、大人向けに講演会や実技指導などを行っています。

陸前高田市で児童書専門図書館「ちいさいおうち」の活動を始めたのは、震災後、避難所へ絵本の読み聞かせに行ったのがきっかけです。避難所は子どもたちが集中して本を読めるような環境ではなく、図書館を作る必要性を痛感しました。また、地元で活動していた読書団体さんが、震災の影響で活動が難しくなり、彼らが築いてきたものを途絶えさせたくないという思いも強くありました。財団の助成金は、施設の一部費用や、活動費の一部として活用させていただいております。四角四面の対応ではない点が助かっています。そして、「ちいさいおうち」の完成を心から喜んでくださっていることが、来館してくださった時のご様子からも強く伝わり、活動を続けていく私たちにとって大きな心の支えとなっております。



団体への寄附



復興活動に関わる団体の、様々な活動に寄附を行っています。

- 南相馬市復興商業連合会—南相馬市内の幼稚園へエアコン17台を寄贈
- 福島の子どもの守ろう—夏季林間学校実行委員会
- NPO「希望の木」プロジェクト—林間学校支援
- 「TED×Tohoku」協賛
- 一般財団法人 教育支援グローバル基金 —
- ビヨンドトゥモロー リーダーシップアカデミー スプリングプログラム2012



メディア掲載

当財団の活動が、さまざまなメディアで取り上げられました。

その一部として、「まなべる基金」、「ふみだすふくしま」、「子どもサポート基金」、「芋煮会ワークショップ」に関する記事を、それぞれご紹介します。

2011年11月11日

河北新報 掲載記事

学べるしあわせをみんなに。

高校生対象給付型奨学金

「まなべる基金」

ソフトバンクの孫正義社長の個人寄付金で設立された公益財団法人「東日本大震災復興支援財団」(東京)は10日、震災で被災した岩手、宮城、福島3県の高校生を対象に、月額2万円を給付する奨学金制度「まなべる基金」を来年4月に始めると発表した。返済不要で募集人員は1000人程度。15日から受け付けを開始する。

給付は年2回、12万円ずつの計24万円。在学中最長3年間受給できる。財団では経費用を約6億円と見込んでいる。

対象とするのは、①来年4月時点で3

**被災3県高校生
月2万円奨学金**

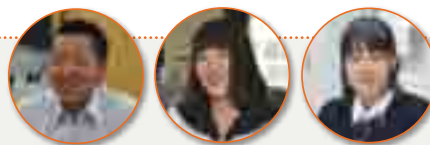
県の高校、高等専門学校、高等専修学校に在学(見込みを含む)で等額を支える人が3人に1人以上に上った被災地や震災事故による生活困難で進学・修学が困難な給付型奨学金を受給していないといった条件を全て満たす生徒。財団は「高校生対象の給付型奨学金が少ないことから新制度を創設した」としている。

応募締め切りは12月2日(消印有効)。各学校を通じて願書と課題作文(高校生生活で夢中になりたいこと)、写真・被災証明書などを提出する。連絡先はフリーダイヤル(0120)957802。

返済不要 募集1000人 孫氏の財団 **15日に受け付け開始**

「まなべる基金」の奨学生募集について、河北新報に取り上げられました。「支援がまだ十分に行き届いていない高校生に、返済が不要な奨学金を提供したい」という財団の思いを紹介いただき、多くの応募が集まりました。

第1期の奨学生1,192名を代表して、各県の高校生3名にインタビューをしました。詳しくはP6をご覧ください。



2012年2月8日

岩手日報 掲載記事

支援活動団体向け助成

子どもサポート基金



**被災地の子ども支援団体へ助成
活動基金 活用を**

東京の財団

県内第2期分を募集

地域の要求に対応へ

「子どもサポート基金」で支援したNPO法人 うれし野こども図書室(岩手県盛岡市)と、図書室を利用する地元の子どもの声が、岩手日報で紹介されました。財団の助成が、地域のNPOの活動を支え、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにつながっています。

助成先団体を代表して、「一時保育施設さくらんぼ」さまと、「NPO法人うれし野こども図書室」さまにインタビューをしました。詳しくは、P10をご覧ください。



2012年1月8日

福島民報 掲載記事



福島県の子どもたちに、放射線の影響が少ない地域でのびのびと遊んでもらう「ふみだす探検隊」の様子が、福島民報で紹介されました。ドッジボールをして元気に遊ぶ子どもたちの笑顔が写真付きで掲載され、地元のテレビ局からも取材がありました。

2012年6月25日

福島民友 掲載記事



財団が東北各地で取り組む「芋煮会ワークショップ」では、地域のお母さんや企業、行政関係者など、様々な立場の人々が集まり、被災地域の現在の課題について率直に意見を交わしています。福島民友では、福島市で行われたワークショップの様子が取り上げられました。

財団が実施する「芋煮会ワークショップ」の詳細については、P13をご覧ください。

イベントなどを通じた活動報告

東日本大震災発生から1年を前に、東京で活動報告会を開催しました。会長の孫が、Twitterなどで募集した一般のお客さまを前に、これまでの活動を報告したほか、発起人であるSMAPの木村拓哉さんをゲストとしてお迎えしました。木村さんは、孫とのトークセッションで、「支援する行動も大事だが、起きた事実を忘れないことも大事」と、その思いを語り、その模様は、テレビや新聞など多数のメディアに取り上げられました。今後も、イベントやWEBなどを通じた情報発信を定期的に行うことで、震災の風化を防ぎ、より多くの理解や関心が得られるよう努めていきます。



そして2年目へ――。

「今年は誰も芋煮会をやっていないなあ。」

阿武隈川の河原で人々が集まり、みんなで芋煮※を食べる。

そんな、震災前は当たり前だった光景を取り戻すため、復興への想いを持った人々が集まり、復興への対話をする場所、それが私たちの「芋煮会ワークショップ」です。

※サトイモを煮込んだ東北の郷土料理。味付けは地域によって様々。

復興に向けた対話「芋煮会ワークショップ」

開催地

福島県南相馬市、福島県伊達市、
福島県二本松市（浪江町）、福島県福島市、
山形県山形市、山形県米沢市、新潟県新潟市

参加人数

約300名（のべ参加人数）



実施の背景

震災後2年目を迎えた中、福島県を中心とした被災地および避難先の状況は刻々と変わっています。そんな今を、被災地の行政の担当者、子育て中のお母さん、地元企業の経営者、支援団体のメンバーなど、幅広い分野の方々と共にワークショップを通じて話し合い、参加者の気づきを生み出すとともに、当財団として支援可能な課題について、1つでも取り組むことを目的としています。

提示された課題の例

- 運動不足による子どもたちの体力低下や肥満
- 農産物に対する風評被害の深刻化
- 自分の本音を話す場の欠如、情報を共有できる場の不足
- 支援団体同士の情報共有不足
- 放射線に対する知識不足

など、幅広い課題を参加者の皆さんからご提示いただきました。

支援の検討を開始した案件

ワークショップを踏まえ、当財団として以下のような支援を検討してまいります。進捗状況は随時ホームページやFacebookなどでお知らせいたします。

- 子ども向けの屋外での保養プログラムの拡充
- 妊婦が集まり、不安を軽減できるような場の提供
- 住民や支援団体等が集まり対話ができる場の提供、ファシリテーターの派遣・育成
- 人工芝導入などによる除染した園庭の砂塵対策
- 児童施設への砂場や遊具などの支援
- 福島県内と避難先を結ぶ定期運行ボランティアバスなどの支援
- 避難したクラスメイトとの再会支援
- 子どもたちの体力低下や肥満への改善支援
- 全国の放射線情報の見える化
- 避難先での保育・就業支援 など

今後の予定

宮城県、岩手県などでの開催も検討しております。

2011年度 財務報告

正味財産増減計算書

2011年7月11日から2012年5月31日まで
(単位:円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
特定資産運用益	466,323
特定資産受取利息	466,323
受取寄付金	982,038,078
一般寄附金	137,523,403
使途指定寄附金(まなべる基金)	27,572,840
特別寄附金(法人会計)	134,500,000
特別寄附金(公益事業)	682,441,835
経常収益計	982,504,401
(2) 経常費用	
事業費	848,004,401
給料手当	9,442,614
旅費交通費	10,332,455
業務委託費	51,848,000
賃借料	13,084,538
支払助成金・寄附金	737,156,037
まなべる基金	47,792,000
ふみだすふくしま	
一時転居支援 第1期	328,301,465
一時転居支援 第2期	129,481,240
ふみだす探検隊 冬プログラム	4,840,000
ふみだす探検隊 春プログラム	3,491,690
ふみだす集中ゼミ in 会津若松	2,399,888
ふみだす未来の教室 in 南相馬	3,000,000
子どもサポート基金	
第1期	93,121,155
第2期	96,540,000
18歳まで携帯料金サポート	1,018,599
その他寄附	27,170,000
その他の事業費	26,140,757
管理費	97,304,138
給料手当	14,221,343
委託労務費	6,388,633
採用費	4,944,240
業務委託費	11,043,680
広告宣伝費	35,766,180
減価償却費	1,937,824
その他の管理費	23,002,238
経常費用計	945,308,539
評価損益等調整前当期経常増減額	37,195,862
評価損益等計	0
当期経常増減額	37,195,862
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	37,195,862
一般正味財産期首残高	226,381
一般正味財産期末残高	37,422,243
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,027,572,840
受取寄付金	4,027,572,840
一般正味財産への振替額	△710,014,675
一般正味財産への振替額	△710,014,675
当期指定正味財産増減額	3,317,558,165
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	3,317,558,165
III 正味財産期末残高	3,354,980,408

※当財団は有限責任監査法人トーマツの会計監査を受けております。

※2011年6月14日から7月10日までは一般財団法人として別途会計監査を受けております。

※各事業の支払予定総額については、各事業のページ(P5~P10)をご参照ください。

支援のお願い

東北の復興には、なお多くの時間を必要とします。当財団では、中長期にわたる活動を行うため、活動の趣旨に賛同いただいた企業や個人の皆さまからの寄附を募っております。

〈受付方法〉

●銀行振込

〈一般寄附金〉

みずほコーポレート銀行 大手町営業部（普）**3514117**
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
（コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン）

〈「まなべる基金」使途指定寄附〉

みずほコーポレート銀行 大手町営業部（普）**3514439**
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
（コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン）

●「Yahoo!ボランティア」インターネット募金

<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/detail/4554001/index.html>

寄附先として選ばれました！

皆さまの善意により、以下の活動の寄附先として当財団が選ばれました。



福岡ソフトバンクホークス ペーニャ選手

ペーニャ選手の今季のホームラン数に応じた金額を寄附いただくことになりました。シーズンを通じ、40本塁打を目標に、1本あたり2万5000円の寄附をいただきます。（40本塁打に満たない場合は、100万円のご寄附をいただきます。）



第7回 湘南国際マラソン

前年に引き続き東日本復興支援大会として開催される「第7回湘南国際マラソン」（2012年11月3日）の、チャリティ募金先団体の一つとして選ばれました。参加者の方のチャレンジ内容に応じて集められた寄附金が、当財団をはじめとした指定団体に寄附されます。

2012年5月31日時点で、当財団の活動に賛同いただいた法人・個人の方からの寄附金が、総額で165,072,857円（企業・団体222社、個人109人）に達しました。（設立者からの寄附金を除く）

多くのご支援に感謝するとともに、皆さまからの寄附は、100%被災地の子どもたちを支援するための活動に役立ててまいります。

団体概要

※2012年5月31日時点

みんなで がんばろう ● 日本

名 称：公益財団法人東日本大震災復興支援財団

設 立 日：2011年6月14日

所 在 地：〒105-0021 東京都港区東新橋1-9-2 汐留住友ビル14階 TEL：03-6889-1560 FAX：03-6889-1568

人員構成：役員8名（理事6名、監事2名） 評議員6名 職員16名

HP：http://minnade-ganbaro.jp Twitter：@ganbarojp Facebook：http://www.facebook.com/ganbarojp

■役員一覧

会 長 孫 正義（ソフトバンク（株）代表取締役）

代表理事 立石 勝義

専務理事 荒井 優

理 事 藤原 睦朗（メディアエッジ（株）代表取締役会長）

藤井 宏明

佐藤 大吾（一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン代表理事）

大橋 智哉（税理士法人山田&パートナーズ）

監 事 君和田 和子（ソフトバンク（株）経理部長）

加藤 善孝（優成監査法人統括代表社員）

評議員 寺島 実郎（（財）日本総合研究所理事長）

小宮山 宏（（株）三菱総合研究所理事長）

村井 純（慶応義塾大学環境情報学部部長）

中村 伊知哉（慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

藤原 和博（東京学芸大学客員教授）

嶋 聡（ソフトバンク（株）社長室長）